

令和4年2月

■一般文学

「血脈」(上巻、中巻、下巻)

・著:佐藤愛子

・出版社:文藝春秋

「ちいさい秋みつけた」を作詞したサトウハチローさんは、実は「九〇歳。なにがめでたい」で知られる佐藤愛子さんの異母兄弟だということ、ご存じでしたか？ 本作「血脈」(上巻、中巻、下巻)は、そんな佐藤一族の波乱万丈な人間模様を描く自伝小説です。愛子さんの父・治六が、最初の奥さんと別れ、愛子さんの母・ハルと再婚して物語が動き出します。家族中が借金や覚醒剤や異性関係の問題を抱え、戦争や病気に運命を翻弄されていく様子は、読みだしたら止まらなくなる勢いに溢れています。

(対象 一般)

■一般書

「手話通訳者になろう」

・著:木村晴美・岡典栄

・出版社:白水社

「新しい元号は、「令和」であります。」この瞬間に菅総理と手話通訳士と一緒に映ったことは、インパクトがあったでしょう。また、都道府県知事の記者会見の時などで手話通訳士を見ることがあるでしょう。

この手話通訳士は、聞こえない人と聞こえる人をつなげる重要な存在です。手指、口、表情、身体のあらゆる部分を動かし、聞こえる人から聞こえない人へ情報を伝えます。聞こえない人たちの世界では、必要不可欠な存在でありながらも、仕事の中身や勉強方法を詳しく知っている方は、ほとんどいないのではないのでしょうか。

ここで手話通訳者の役割、働き方、やりがいに触れています。聞こえない人たちと密接に関わることが多く、苦勞の連続ですが、普段の生活、病院へ行くとき、災害が起きたとき、国際で活躍するときなど、あらゆる場面で活躍する彼らの手話はとても美しいです。

手話通訳者は、聞こえない人たちが「コミュニケーションが出来る！世界がひろがる！」とサポートできる素晴らしい職業です。ぜひとも、魅力あふれる手話表現の世界に触れてみませんか。

(対象 一般)

■児童書

「理科と算数で検証したら、わかってしまった昔話の真実 2 世界のお話編」

・監修:柳田 理科雄

・編:WILL こども知育研究所

・出版社:フレーベル館

「日本のお話編」に続くシリーズ2巻目です。見返しの世界地図で、この本でとりあげられたお話の場所がわかりやすく示されています。

そのうちのギリシャの昔話「うさぎとかめ」では、小学校5年生の算数を利用してウサギが休んでいた時間を計算し、また3年生の理科で学ぶ知識を用いて、ウサギとカメの活動時間を解説し、カメの“作戦通りの勝利”を検証します。

昔話の内容を実際に考えてみると「ほんとうに？」と思うことがいくつも出てきます。だれもが読んだことのある昔話の疑問を小学生の算数と理科の知識で科学的に解決してみませんか。

(対象 小学校中学年から)

■絵本

「いろがみえるのはどうして？」

・作:キャサリン・バー

・絵:ユリヤ・グウィリム

・出版社:小学館

この絵本のみひらきにはこう書いてあります。「いろがみえるのはどうしてだとおもう？それはひかりがあるからです。いろのいろいろがよ〜くわかるよ。」。地球はいろいろな色であふれていて、私たちはそれがあたりまえだと思っています。でも、このたくさんの色はどうして見えるのか？ほかの生きものも人間と同じように見えているのか？海や空はなぜ青いのか？子どもたちはきっとさまざまな疑問を持っていると思います。この絵本は、そんな疑問を分かりやすく、楽しく、あざやかな色彩の絵とともに教えてくれます。

子どもたちだけでなくお父さんやお母さんも一緒にいろの世界の不思議を楽しんでみてはいかがでしょうか。最後のページには用語の解説もついていますよ。

(対象 小学校低学年から)